company newsletter

VOL59

ダン吉＆べっこときどき新聞

2020.9　群馬をアニメでPR　渋川市　　発行元　小久保運送（有）/　かたづけダンベぇ　0270-32-1542

ご存じの方も多いと思います。漫画「イニシャルD」。1995年発表の作品ですが、私はそれより随分遅れて読み始め、その後アニメ化された作品をみて、更に映画も見に行きました。

主人公は群馬県渋川市の「走り屋」に目覚めた高校生（のち成長しますが）。初期の頃はすべて群馬が舞台。のち話が展開し、埼玉や栃木、茨城、神奈川と、どこも山道がある田舎ばっかりなので、いい年したおっさんである私にも、なぜか親しみがもてるストーリー（特に最初の頃は県内の馴染みある場所が、随所に出てきます。）

ですので群馬県や渋川市はこの作品とコラボしたら良いのに？などと思っていました。ただ当時、渋川周辺の仲間にそのことを話すと、走り屋がテーマの一つになってることもあってあまり行政が協力的ではないとのことでした（真偽は不明です）。ちなみに当時、榛名湖畔のお土産屋さんに行っても、関連グッズはあまり無かったかも。結構マニアは「聖地」である榛名湖や渋川市に来てるはずなんですが、、、

そんな「イニD」ですが、この度アニメツーリズムと称し、イニDをモチーフにしたマンホール蓋を7つ市内に配置し観光客誘致につなげたいと渋川市がPR。群テレで見て、いよいよやるんだと思った次第です。

伊勢崎市にも「タッチ」のあだち充先生や「日常」のあらゐけいいち先生が、市内の風景を作品の中に投影されていて、一部のマニアには聖地になってます。同様の取り組みをしてくれれば、両市は相乗効果があるやもしれません。期待したいものです。あっ、渋川には先日行ってきましたが結構蓋目当ての人、来ていました。沼津といい秩父といい、アニメ聖地の存在、これから地方にとって益々大きくなるかもしれないですね（TK）

「伊勢崎市境東　水戸屋の「くずバー」」

「暑い季節に食べたいもの。やっぱりアイスですよね。そこで、伊勢崎市の老舗和菓子店**「水戸屋」**さんの、ひんやり冷たいデザートをご紹介します。その名も**「溶けないアイスくずバー」**。

表面のシャリ！とした食感はアイスキャンディーだけど、その先のぷるんぷるん♪と、もちもちの弾力は、初めての感覚！その秘密は、和の素材「葛（くず）」が使用されているから。

冷たいけど歯にしみるような刺激もなく、優しい歯ざわりです。溶かし具合で食感が変化するので、お好みの具合でどうぞ。保存料も入らず、アイスよりも満腹感はあるのに、葛だから低カロリー。

子どもから女性、アイスが苦手なお年寄りまで喜ばれそう。再冷凍ができるのも嬉しいですね。

味は、みかん・抹茶・大納言・ピーチ・ストロベリー・サイダー・パイナップルの６種類。カラフルで可愛らしく、暑い季節の手土産にもぴったりです！（ちなみに一年中販売予定とのこと）

溶けないアイス　くずバー

かたづけダンベぇから

残暑、まだまだ厳しそうですね。
かたづけダンベぇでは風通しのよい、すっきりしたお部屋づくりのお手伝いをさせて頂いております。
気になることがありましたら、是非お気軽にご相談下さい。

ひとこと

上野村にジャンボが墜落して、三十五年が経ちました。当時私は二十二歳。水上温泉のホテルでアルバイトしていました。

事故の大きさからなのか、事故当日のことをよく覚えているのです。ですから毎年八月十二日になると、なぞるようにあの頃のことを思い出します。

そんなこともあって、横山秀夫先生のクライマーズハイが映画化・ドラマ化されて、私は両方ともDVDを持ってます。

毎年その日になると、堤真一主演の映画と佐藤浩市主演のNHKドラマを交互に見ます。もちろんフィクションもあるのですが、毎年事故を時系列になぞることで、改めて事故の影響の大きさや重大さを再認識させられるのでした。と同時に、もう戻らないあの夏の日を想い出し、一人感傷に浸るのでした（笑）

「菓庵　水戸屋」

住所：伊勢崎市境東224
電話：0270-74-0212
営業：9：00～18：00
定休日：無休

出典「アイマップ」www.imap.ne.jp